

# 企業レジリエンシーを高める必要性

ITインフラが多様化・複雑化する中、システム復旧の方法や事前対策も複雑となり運用負荷が増大している。今回、自動化の活用、プロセスの可視化、復旧シミュレーション、といったシステム復旧対策の強化について紹介します。

## 背景

ITインフラの多様化・複雑化によりお客様のビジネス継続に対するシステム停止のリスクは増大する傾向となってきています。

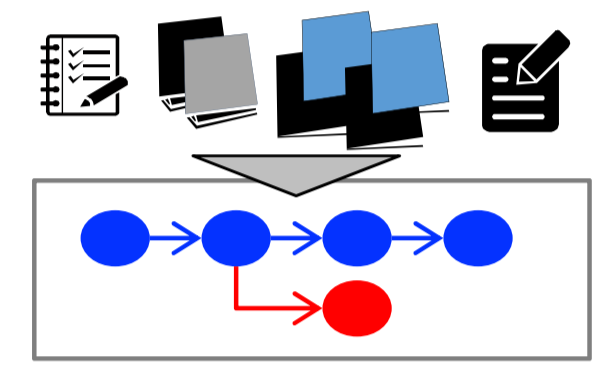
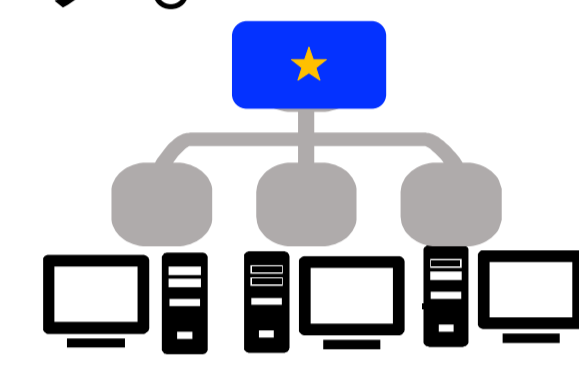
## 課題

事業継続計画(BCP)におけるシステムの本番・復旧環境には課題が山積みです。

手順書の維持管理	手動の復旧	復旧手順がシステム別	不十分なリハーサル
	復旧手順の属人化	要員の移動時間	対策要員の不足

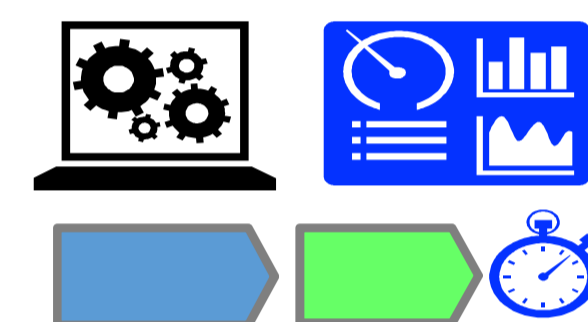
## アプローチ方針

システム復旧の標準化・見える化・統合化による運用コストの削減、品質の向上をIBMのレジリエンシーオーケストレーションが実現します。



オーケストレーション・サーバーの設置により、既存の復旧対策を統合し活用することが可能。

復旧手順書をワークフロー化することで標準化を実現。特別なスキルを要することなく手順の実行が可能。



復旧手順を自動化することで作業のミスが減らし、復旧時間の短縮を実現。復旧時の要員も最適化可能。

手順の事前検証にドライラン機能を使用することで本番稼働中に手順の検証を行い、リハーサルの作業を効率化。

## 課題解消

レジリエンシー・オーケストレーションの代表的な機能<ダッシュボード>

- RTO/RPO/データ同期状況の可視化
- リカバリー対応状況の可視化
- 対象システムごとの対策状況の可視化

<ワークフロー> 1例

- 実績のあるワークフロー活用
- 標準ライブラリーの提供
- 既存シェルの取り込み

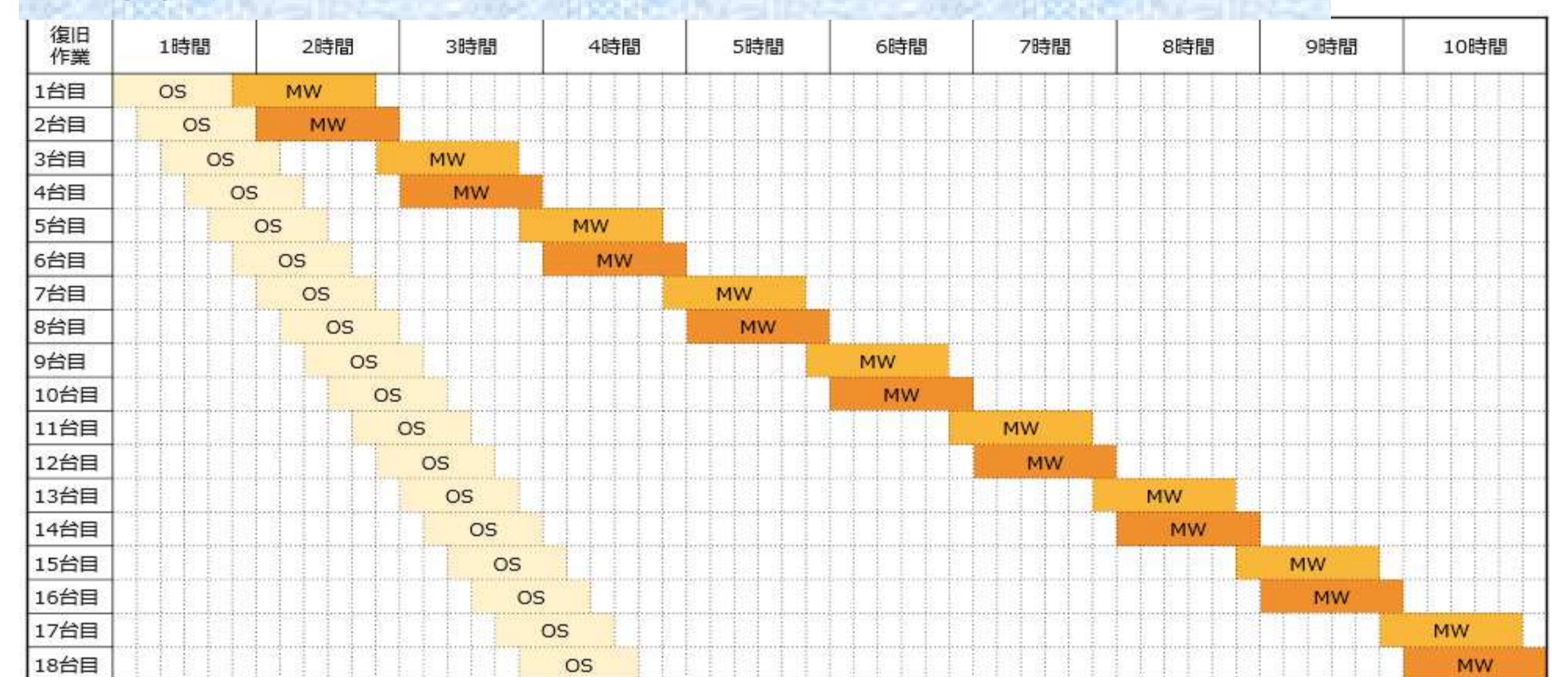
<ドライラン>

- 本番稼働と並行した検証機能
- 事前検証によるリハーサル失敗の未然防止
- 担当部署間の情報連携漏れの回避

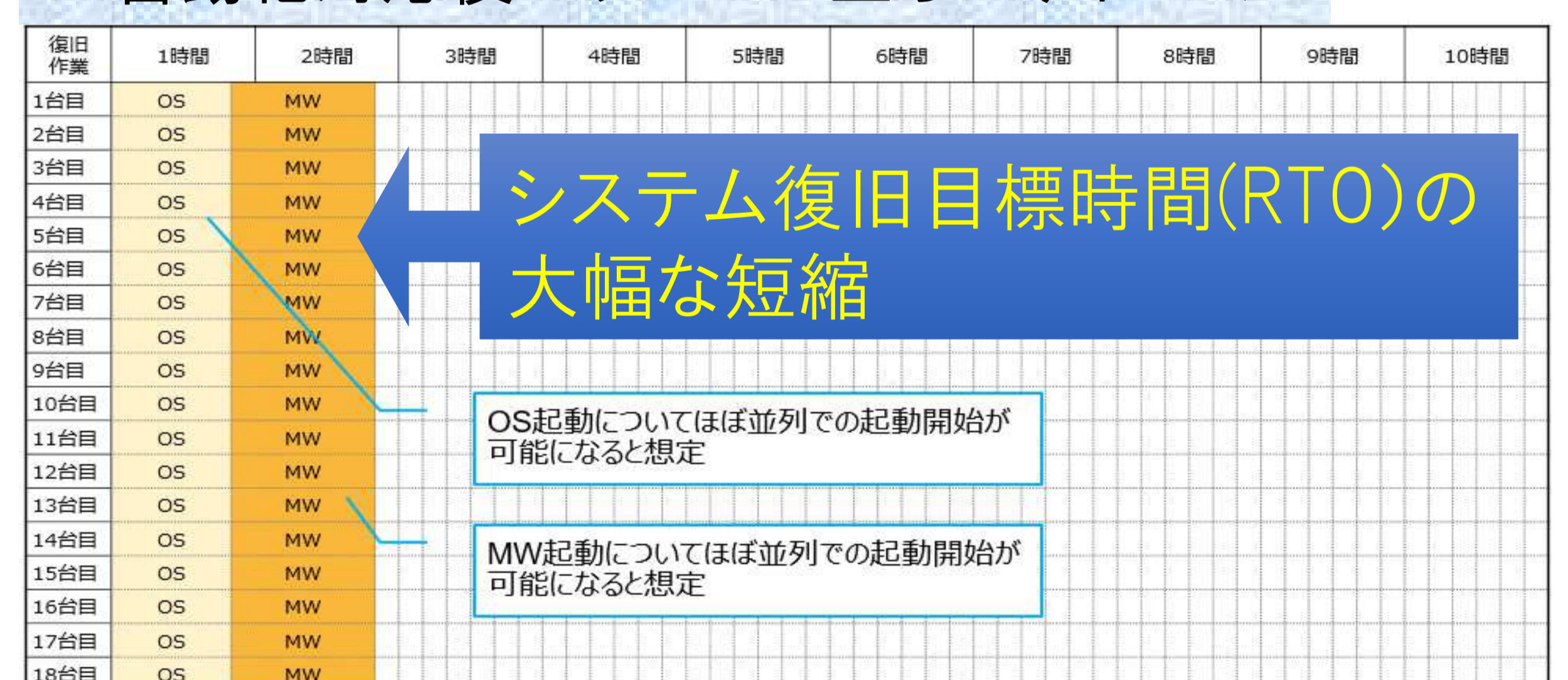
<レポート>

- 実行結果の自動記録によるワークロードの削減
- 問題発生時の発生箇所の特定の迅速化

■ 自動化対応前のサーバー立ち上げイメージ



■ 自動化対応後のサーバー立ち上げイメージ



システム復旧目標時間(RTO)の大幅な短縮

OS起動についてほぼ並列での起動開始が可能になると想定

MW起動についてほぼ並列での起動開始が可能になると想定

## 今後の展望

レジリエンシー・オーケストレーションの機能を利用することで、今まで企業で悩まされていた前述の課題が解消され、堅実なBCPの遂行と定期復旧訓練等の費用削減が期待できます。この導入ノウハウを生かし、BCPでお困りのお客様と一緒に問題を解決するお手伝いをしていきます。

※本資料に記載されているロゴ、システム名称、企業名称、製品名称は各社の登録商標または商標です。